

2014年度

線型代数学演習 A

No. 8 例題

2014年6月16日実施

1] 以下の \mathbb{C}^3 の部分集合 $S \subset \mathbb{C}^3$ が部分ベクトル空間であるか, 根拠を添えて述べよ.

$$(1) S = \left\{ \begin{pmatrix} x_1 \\ x_2 \\ x_3 \end{pmatrix} \in \mathbb{C}^3; \begin{matrix} 3x_1 - 2x_2 + 5x_3 = 0, \\ x_1 + 3x_2 - 4x_3 = 0 \end{matrix} \right\}.$$

$$(2) S = \left\{ \begin{pmatrix} x_1 \\ x_2 \\ x_3 \end{pmatrix} \in \mathbb{C}^3; x_1^2 - x_2^2 + x_3^2 = 0 \right\}.$$

(略解) (1) $\mathbf{x} = \begin{pmatrix} x_1 \\ x_2 \\ x_3 \end{pmatrix}$, $A = \begin{pmatrix} 3 & -2 & 5 \\ 1 & 3 & -4 \end{pmatrix}$ とおく. そして, $f: \mathbb{C}^3 \rightarrow \mathbb{C}^2$ を $f(\mathbf{x}) = A\mathbf{x}$ ($\mathbf{x} \in \mathbb{C}^3$) とする. すると, f は線型写像であり, $S = \{\mathbf{x} \in \mathbb{C}^3; f(\mathbf{x}) = A\mathbf{x} = \mathbf{0}\}$, 即ち, $S \subset \mathbb{C}^3$ は線型写像 f の核 $\text{Ker} f$ である. ゆえに, S は \mathbb{C}^3 の部分ベクトル空間である. 実際, $f(\mathbf{0}) = A\mathbf{0} = \mathbf{0}$ であるから $\mathbf{0} \in \text{Ker} f = S$ であり, $\mathbf{x}, \mathbf{x}' \in S$, $\alpha \in \mathbb{C}$ とすると, $S = \text{Ker} f$ より $f(\mathbf{x}) = f(\mathbf{x}') = \mathbf{0}$ となり,

$$f(\mathbf{x} + \mathbf{x}') = f(\mathbf{x}) + f(\mathbf{x}') = \mathbf{0} + \mathbf{0} = \mathbf{0},$$

$$f(\alpha\mathbf{x}) = \alpha f(\mathbf{x}) = \alpha\mathbf{0} = \mathbf{0}.$$

ゆえに, $\mathbf{x} + \mathbf{x}'$, $\alpha\mathbf{x} \in \text{Ker} f = S$ であることがわかる.

$$(2) \mathbf{x} = \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ 0 \end{pmatrix}, \mathbf{x}' = \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \\ 1 \end{pmatrix} \text{ とする. すると, } 1^2 - 1^2 + 0^2 = 1 - 1 + 0 = 0, 0^2 - 1^2 + 1^2 =$$

$0 - 1 + 1 = 0$ であるから, $\mathbf{x}, \mathbf{x}' \in S$ である. ここで, $\mathbf{x} + \mathbf{x}' = \begin{pmatrix} 1 \\ 2 \\ 1 \end{pmatrix}$ であるが, $1^2 - 2^2 + 1^2 = 1 - 4 + 1 = -2 \neq 0$ であるから, $\mathbf{x} + \mathbf{x}' \notin S$. 従って, S は \mathbb{C}^3 の部分ベクトル空間ではない.

2] $\mathbf{v}_1, \mathbf{v}_2, \mathbf{v}_3, \mathbf{v}_4 \in \mathbb{C}^4$ を以下で与えられる 4 次複素数ベクトルとする.

$$\mathbf{v}_1 = \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ -2 \\ 0 \end{pmatrix}, \mathbf{v}_2 = \begin{pmatrix} 0 \\ -1 \\ 0 \\ 1 \end{pmatrix}, \mathbf{v}_3 = \begin{pmatrix} 1 \\ -2 \\ 0 \\ 0 \end{pmatrix}, \mathbf{v}_4 = \begin{pmatrix} 0 \\ 0 \\ 1 \\ -1 \end{pmatrix}.$$

そして, $U_1 = \langle \mathbf{v}_1, \mathbf{v}_2 \rangle, U_2 = \langle \mathbf{v}_3, \mathbf{v}_4 \rangle \subset \mathbb{C}^4$ を, それぞれ \mathbf{v}_1 と $\mathbf{v}_2, \mathbf{v}_3$ と \mathbf{v}_4 で生成された \mathbb{C}^4 の部分ベクトル空間とする.

(1) U_1 と U_2 の共通部分 $U_1 \cap U_2$ の基底を 1 組与えよ.

(2) (1) で与えられる $U_1 \cap U_2$ の基底に適当なベクトルを付け加えて, U_1 と U_2 の和空間 $U_1 + U_2$ の基底を 1 組構成せよ.

(略解) (1) $\mathbf{x} = \begin{pmatrix} x_1 \\ x_2 \\ x_3 \\ x_4 \end{pmatrix} \in U_1 \cap U_2$ とすると, $\alpha_1, \alpha_2, \alpha_3, \alpha_4 \in \mathbb{C}$ が存在して, $\mathbf{x} = \alpha_1 \mathbf{v}_1 +$

$\alpha_2 \mathbf{v}_2 = \alpha_3 \mathbf{v}_3 + \alpha_4 \mathbf{v}_4$ と表される. すると, $\begin{pmatrix} \alpha_1 \\ -\alpha_2 \\ -2\alpha_1 \\ \alpha_2 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} \alpha_3 \\ -2\alpha_3 \\ \alpha_4 \\ -\alpha_4 \end{pmatrix}$ が成り立つから,

$2\alpha_1 = \alpha_2 = 2\alpha_3 = -\alpha_4$ となる. そこで, $(\alpha_1, \alpha_2, \alpha_3, \alpha_4) = (t, 2t, t, -2t)$ ($t \in \mathbb{C}$) とすると, $\mathbf{x} = \begin{pmatrix} t \\ -2t \\ -2t \\ 2t \end{pmatrix}$ であり, $\mathbf{x} = t\mathbf{v}_1 + 2t\mathbf{v}_2 \in U_1$, かつ $\mathbf{x} = t\mathbf{v}_3 - 2t\mathbf{v}_4 \in U_2$ であるから,

$\mathbf{x} \in U_1 \cap U_2$ である. 従って, $U_1 \cap U_2$ の基底として $\left\{ \begin{pmatrix} 1 \\ -2 \\ -2 \\ 2 \end{pmatrix} \right\}$ をとることができる.

(2) $\mathbf{v}_1, \mathbf{v}_2$ は一次独立であるから $\dim U_1 = 2$ であり, $\mathbf{v}_3, \mathbf{v}_4$ も一次独立であるから $\dim U_2 = 2$ である. いま, $\mathbf{v}_0 = \begin{pmatrix} 1 \\ -2 \\ -2 \\ 2 \end{pmatrix}$ とすると, (1) より $\{\mathbf{v}_0\}$ は $U_1 \cap U_2$ の基底で

ある. 特に, $\mathbf{v}_0 \in U_1$ であり, $\mathbf{v}_0, \mathbf{v}_1$ は一次独立であるから, $\{\mathbf{v}_0, \mathbf{v}_1\} \subset U_1$ は U_1 の基底である. 同様にして, $\mathbf{v}_0 \in U_2$ であり, $\mathbf{v}_0, \mathbf{v}_3$ は一次独立であるから, $\{\mathbf{v}_0, \mathbf{v}_3\} \subset U_2$ は U_2 の基底である. ところで, $\mathbf{x} \in U_1 + U_2$ について, $\mathbf{x}_1 \in U_1, \mathbf{x}_2 \in U_2$ が存在して, $\mathbf{x} = \mathbf{x}_1 + \mathbf{x}_2$ と表される. $\{\mathbf{v}_0, \mathbf{v}_1\}, \{\mathbf{v}_0, \mathbf{v}_3\}$ はそれぞれ U_1, U_2 の基底であるから, $\beta, \beta', \gamma, \gamma' \in \mathbb{C}$ が存在して, $\mathbf{x}_1 = \beta \mathbf{v}_0 + \beta' \mathbf{v}_1, \mathbf{x}_2 = \gamma \mathbf{v}_0 + \gamma' \mathbf{v}_3$ と表される. よって, $\mathbf{x} = (\beta + \gamma) \mathbf{v}_0 + \beta' \mathbf{v}_1 + \gamma' \mathbf{v}_3$ となり, $\{\mathbf{v}_0, \mathbf{v}_1, \mathbf{v}_3\}$ は $U_1 + U_2$ を生成する. 次に, $\alpha, \beta, \gamma \in \mathbb{C}$, かつ $\alpha \mathbf{v}_0 + \beta \mathbf{v}_1 + \gamma \mathbf{v}_3 = \mathbf{0}$ とすると, $\alpha \mathbf{v}_0 + \beta \mathbf{v}_1 = -\gamma \mathbf{v}_3 \in U_1 \cap U_2$ である. ここで, $\{\mathbf{v}_0\}$ は $U_1 \cap U_2$ の基底であるから, $\delta \in \mathbb{C}$ が存在して, $\alpha \mathbf{v}_0 + \beta \mathbf{v}_1 = \delta \mathbf{v}_0 = \delta \mathbf{v}_0 + 0 \mathbf{v}_1$ である. そして, $\{\mathbf{v}_0, \mathbf{v}_1\}$ は U_1 の基底であるから, $\alpha = \delta, \beta = 0$ が成り立つ. よって, $\alpha \mathbf{v}_0 + 0 \mathbf{v}_3 = \alpha \mathbf{v}_0 = -\gamma \mathbf{v}_3 = 0 \mathbf{v}_0 - \gamma \mathbf{v}_3$ であり, $\{\mathbf{v}_0, \mathbf{v}_3\}$ は U_2 の基底であるから, $\alpha = \gamma = 0$. 従って, $\mathbf{v}_0, \mathbf{v}_1, \mathbf{v}_3$ は一次独立である. 以上により, $\{\mathbf{v}_0, \mathbf{v}_1, \mathbf{v}_3\}$ は $U_1 + U_2$ の基底である.